

離着底兼用トロール漁具(開口板)の開発

漁業生産工学部

研究の背景・目的

1. 海底付近の魚介類(シャコ、マアナゴ等)が減少傾向(伊勢湾)
2. そこで海底から離れた魚(あじ類、かます類等)を対象として設計した離着底兼用トロール網とともに、この網を効率よく開かせるための開口板を開発

研究成果

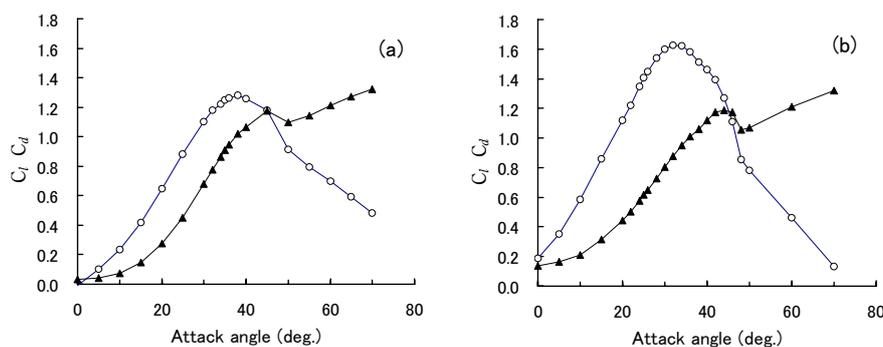
1. 揚抗比(開きの効率)は現用開口板の 1.4 倍(模型実験)
2. 離底曳網時の試作開口板間隔(水平方向の開き)は、現用開口板の着底曳網時の 1.1~1.2 倍(操業実験)

波及効果

離着底兼用トロール網との組み合わせにより、濾水容積が従来の網よりも増加、海底から離れた魚も漁獲対象に



試作した開口板



揚力係数(網を開かせる方向の力、○)・抗力係数(流れの方向の力▲)と流れに対する角度との関係を模型実験から調べ、開口板の性能を把握。(a)、現用開口板、(b)、試作した開口板

(漁法研究室・山崎慎太郎)